



2016年5月19日
在日米国商工会議所

ACCJ 金融サービスフォーラム白書を発表 成長主導：21世紀国際金融システムへの展望

在日米国商工会議所（ACCJ）は本日、「成長主導：21世紀国際金融システムへの展望」と題したACCJ金融サービスフォーラム白書を発表しました。

経済界は先行き不透明で変動の大きい国際経済において、成長の機会を模索しています。また、国際金融の政策策定者は、既に実行されている改革が望ましい成果をもたらしているかを含め、現在進行中の国際金融規制改革について活発に議論を行っています。そのような中、ACCJは21世紀国際金融システムに関するビジョンを発表できることを嬉しく思います。

ACCJは本白書で、国際的な金融規制改革、および長期的に持続可能な経済成長を遂げるために金融サービス業界が果たすべき役割をテーマに取り上げています。

ACCJのクリストファー・ラフルアー会頭は「G7伊勢志摩サミット開催前に本白書を発表できたことを嬉しく思います。今回のG7サミットは、安倍政権の成長志向のビジョンを世界に示す重要な場であると同時に、国際経済改革の議論において日本とアメリカが協調してリーダーシップを発揮できる、またとない機会です」と述べました。

本白書は、2008年の金融危機以降、G20などの国際会議の場でどのように国際経済のルールが策定されてきたかを説明しています。危機から約8年が経過し、重要な進展が見られましたが、G20主導の体制下で今もなお新たな規制が金融安定化や消費者の保護に、ましてや経済成長や雇用創出におよぼす累積的影響が十分に理解されないまま、猛烈なスピードで生まれ続けています。

ACCJ金融サービスフォーラムのアンドリュー・コンラッド委員長は「経済成長がまだ停滞を続ける現段階において、ACCJの会員は、金融サービス業界が成長を下支えする重要な役割を十分かつ適切に発揮できるよう、改革の方向性を見直すべきと考えています」と述べました。

本白書は、国際金融規制体制が直面している課題の背景を示したうえで、金融規制をめぐる国際間の政策決定において、G7が成長志向の戦略的役割を果たすための新たな枠組みを提案するものです。

コンラッド委員長は続けて、「このきわめて重要な課題について、日本および世界で行われている政策議論に本金融サービスフォーラム白書が建設的な役割を果たすことを願っております」と述べました。

###

1607 J**—在日米国商工会議所について—**

在日米国商工会議所（ACCJ）は、米国企業 40 社により 1948 年に設立された日本で最大の外国経済団体です。米国企業の日本における経営者を中心に、現在は約 1000 社を代表する会員で構成され、東京、名古屋、大阪に事務所を置いています。日米両国政府や経済団体等との協力関係のもと、「日米の経済関係の更なる進展、米国企業および会員活動の支援、そして、日本における国際的なビジネス環境の強化」というミッションの実現に向けた活動を展開しています。また、60 以上の業界・分野別委員会を中心に活動を行い、意見書やパブリック・コメント、白書等を通じた政策提言や、政策や経済の動向等について年間 500 以上のイベントやセミナーを開催するとともに、各種チャリティー等の企業の社会的責任（CSR）活動にも積極的に取り組んでいます。

【お問い合わせ】

同件に関するお問い合わせは、在日米国商工会議所 渉外室（電話: 03-3433-6542; メール: external@accj.or.jp）までお願いいたします。